



笑顔でお見舞い品を受け取るメンバーと中川さん。

# 組合員に支援物資と 安心をお届けする 「お見舞い活動」

## みやぎ生協・東支部

巨大地震は宅配事業のさまざまな仕組みにも大きな被害をもたらし、以降の配達を完全にストップさせた。しかし、みやぎ生協では翌日から、宅配（班、個人宅配）の全メンバー（組合員）の安否確認を柱とする、「お見舞い活動」に取り組んでいる。

東支部の朝礼の様子。この日の活動は正規職員のみで、しかも約半数が震災後初の休みを取っているため少数精鋭。左奥が東支部統括の櫻井さん。

## 震災直後から メンバーの安否確認を進める

「お見舞い活動」では、個々の班やメンバー（組合員）宅を訪れ、①メンバーの安否確認（とりわけ高齢単身者）、②震災お見舞いの支援物資（食料品や水、お菓子など）のお届け、③生協からの諸連絡を行なっている。

その実際の様子を知るため、3月19日（土）に東支部（仙台市宮城野区）を

訪れた。同支部の配達エリアは仙台市北東部。津波により大きな被害が出た塩釜市や多賀城市の沿岸部も含まれており、メンバーの安否が気遣われる地域の一つだという。この日の朝礼で、東支部統括の櫻井敦さんは、

「場所によっては電気に加え、水道も復旧している所があるようです。お見舞いの商品を一律に渡すのではなく、そのメンバーさんが何を必要とされているのかお聞きし、お渡しするようにしてください。」

連日のお見舞い活動で疲れもたまっているころだと思いますが、メンバーさんに笑顔でお見舞い品をお届けし、少しでも元気を出していただけるよう、頑張っていきたいと思います」と職員たちに訴えた。

## 笑顔でお見舞い品をお届けし 少しでも元気を出してもらおう

「お見舞い活動」は、職員の安全確保のため2人1組で実施。塩釜エリア担当の





菅野貴志さんと中川朋彦さんの配達車に同乗させてもらった。現地向かう車の中で中川さんは、地震発生時について、「その時は配達途中でした。大きな揺れだったので車を路肩に寄せて停車し、揺れが収まるまで待ちました。収まった後、直前に一人暮らしのメンバーさんにお届けしたところだったので、その方の安否が気

になり戻りましたが、ちょうど避難される場所でした。本部に無線で確認したところ、「配達車は安全な場所待機」という指示でしたので、近くの塩釜杉の入り店駐車場に車を止め、お店の支援に入りました」と話す。

また菅野さんは、「お見舞い活動」について、「メンバーさん宅を訪れると、『こんな時に、本当によく来てくれたね。どうもありがとう』と言って、思わず泣き出される人も多くいました。確かに、このような時にお見舞い活動ができ、少しでも人の役に立つことができるのは生協だけではないでしょうか。こういう時に生協で働いていて本当によかったと、昨日2人で話し合っていたんです」と話してくれた。

その言葉を裏付けるように、お会いし、お見舞い品をお渡しできたメンバーからは、



みやぎ生協

いわて生協



東支部営業担当  
中川朋彦さん

東支部営業担当  
サブチーフ  
菅野貴志さん

「本当にありがとう。ところで、地震の前に注文した分はどうなるの？ 次はいつ注文できるの？」という声や、「いつも届けてもらっているのに、こんな時までお見舞い品を届けてもらって、ありがとう。足が悪く、買い物に行けないので、早く宅配を再開してもらえないと本当に困ります」「えっ！ パンをいただけませんか？ 本当に助かります。わざわざ届けていただいて、ありがとうございます」など、感謝の言葉とともに、一刻も早い宅配の再開を願う声をたくさんいただいた。

### 不在宅にも、相手を気遣う 手書きのメモを残す

「お見舞い活動」の途中で、中川さんはどうしても立ち寄りたい家があるという。それはお子さんが生まれたばかりのメンバー宅で、「地震発生後、真っ先に思い浮

かんだのは、このメンバーさんのことでした」と話す。震災後不在で、連絡が取れないという。訪れてみるとやはり不在のままだったが、中川さんは櫻井統括が朝礼のとき用意してくれた不在時連絡表に、「心配しています」との言葉を添えて残していた。

この日2人は、班・職場班、個人宅配のメンバー宅など26カ所を訪れ、51人の安否を確認することができた。生協にとって何よりの財産である組合員の状況を知り、困難な時こそ助け合うこの活動は、他生協からの支援スタッフも加わって続けられている。3月21日からは電話での安否確認も開始し、宅配事業の再開までに全ての人の確認を目指すという。



津波により大きな被害を受けた塩釜港近くの様子。

※3月31日までに14万7,552人(宅配利用者の87.2%)まで確認ができている。